

第4回学校運営協議会 議事録

日 時：令和5年1月31日(火) 15:00～17:00

場 所：和歌山工業高等学校 大会議室

出席者

(学校運営協議会委員)

田中 一壽氏 (和歌山商工会議所専務理事)
村田 頼信氏 (和歌山大学システム工学部システム工学科教授)
田中 資則氏 (元紀伊コスモス支援学校校長)
和田 通尚氏 (海南市立亀川中学校長)
前田 隆一氏 (本校全日制育友会会長)
高垣 晴夫氏 (本校同窓会副会長)
西村 保展氏 (本校同窓会副会長)
松本 泰幸 (本校校長)

(学校出席者)

宮本 裕司 (全日制教頭) 阪中 潤 (全日制教頭) 小島 穰 (地域連携担当)
吉田 庄吾 (全日制教務部長) 雑賀 慎哉 (学校評価委員会委員長)
吉村 太一郎 (定時制教頭) 坂口 佳隆 (定時制進路指導部長) 岡本 邦孝 (定時制生徒指導部長)

【1】 開会

【2】 会長挨拶

【3】 校長挨拶 (松本校長)。

【4】 議事 (議長：田中会長)

(1) 本年度の総括について(松本校長)

4月にご承認いただいた方針のとおり学校運営を進めてきた。

- ・将来構想委員会の活動 小学生対象のものづくり教室 (夏休みに1日)
 - ・3つの科が中心となり実施 小学生22名が参加。
 - ・ホバークラフト制作、トートバッグ染色、新聞紙ドーム作成。
 - ・本校生徒にも参加させ、説明や指導をさせることができた。
 - ・県の補助金があり、活用して実施した。

若手職員の勉強会 (月1回)

- ・中央研修の報告会
- ・新しい評価についての勉強会
- ・アロマオイル精製研修とその報告会

- ・特別支援教育に注力 教育相談部員1名増員

まずは特別支援の土台の確認。

暴力事件における生徒指導において特別な指導を行う事例があった。

・キャリア教育の充実

インターンシップや企業説明会を行っている。

職業選択の指導だけではなく、行事等においてもキャリア教育としての側面を明確にすることにより、和工の生徒らしい資質を育てたい。

「キャリアパスポート」を導入し、個々の生徒に自らの学びを記録させようとしている。

行事の重点を明確にし、教員も意識して指導するようにしたい。

・和工ハウスプロジェクト

企業との協力を考えたい。

商工会議所建設部会の方々に集まってもらってご意見をいただいた。

資金調達の一つの方法としてクラウドファンディングなども検討している。

生徒が輝く取組みにしたい。

・地域連携

来年度は避難訓練を地域の人と一緒にやっていきたい。

新型コロナウイルス感染症が5類に移行すれば、もう少し外部との関わりや取組を増やしたい。

・定時制教育

生徒支援委員会を導入し、情報共有はできた。

学習面では、普通教科の授業において来年度はできるだけT.T形式で授業を行うことにした。

・新たな工業教育を考えるワーキンググループ

高校再編で拠点校として残る予定。和工らしさをつくっていきたい。

1. 進学に力を入れる 放課後に数学の補習を行っていこうと考える。
和大生に来てもらったり、オンラインなどができないか考える。
2. 資格修得に力を入れる
3. 複合領域を学ぶ 既存の科の中で、複合領域を学ぶことを意識してもらう。
4. 先端技術を学ぶ 講師派遣をしてもらったり、長期インターンシップを検討する。
大学や企業の先進設備を使わせてもらう。

(委員からのご意見)

(委員) ものづくりの教室に生徒が参加とあるが、どのように生徒を集めたのか。

→ ものづくりクラブの部員や、科によっては協力してくれる生徒に直接声かけをした

(委員) 協力することに消極的な生徒をどうしたら良いかが課題。

キャリア教育については、何をするにもキャリア教育の観点を意識させる必要がある。

「キャリア・パスポート」は先生からのフィードバックはあるのか。

大学では教員からフィードバックしている。

土木科は、科の名前を変更したりして、新しさを出したらどうか。

(委員) 進学サポートについて、高い学力よりも基礎学力をつけていくことが大事だと思う。

キャリア・パスポートのねらいに対して、生徒が自らどのように取り組めたのかを振り返るきっかけにしてほしい。

キャリア・パスポートなどで、生徒にどんな変化が出てきたかを知りたい。

和工生の活躍を新聞等で見て、大変うれしく思う。もっと学校のアピールをしてほしい。

- (委員) 修学旅行が延期になったと聞いて、心配していた。何とか実施してあげてほしい。
資格取得は先生からのすすめが必要だと思う。
先輩の話聞く機会を増やしてもよい。
- (委員) CAD から BIM への進展の話は大変うれしく思っている。しっかりした展開をお願いしたい。
資格取得の取組は評価できる。学校の先生の協力が必要。
定時制には、食堂や図書館で交流の場をつくってほしい。
進学サポートで和大学の学生にボランティアで講師に来てもらうのはお金がかかるのか。
→ 和歌山大学に制度があり、無償で行うことを想定している。ボランティア。
和歌山信愛大学など教育系大学も検討してみてもどうか。
- (委員) 高校生にもっと英語力を身につけてほしい。
小中学校にものづくりを通じて和歌山工業のアピールをしてほしい。土曜センター事業。
生徒との意見交換は良かった。是非続けてもらいたい。
- (委員) 和歌山盲学校展で、和工とコラボしているところを拝見した。
生徒との懇談が印象に残っている。信頼できる先生がいることは良いことである。
将来構想委員会の月 1 回の活動は素晴らしい。
特別支援教育においては、適切な支援を受けられていない生徒がいることが問題。
いろいろなチャレンジを今後も進めてほしい。
定時制の生徒支援委員会などの取組みは、全日制にも必ず役に立つ取組みである。
- (委員) 生徒との懇談は大変よかった。
県内の求人が昨年より少なくなっているのはなぜか。
→ 和歌山の大企業の撤退や、指定校求人を出していた企業が公開求人になったなど考えられる。

(上野山進路指導部長)

(2) 来年度の運営協議会の活動について (松本校長)

今年やってきたことを更に充実させたい。生徒・教員・学校に分けて考えていきたい。

・生徒

生徒の工業離れ、定員割れがふえてきている。普通科志向は全国的な兆候。

工業高校でも進学が増えてきている。

多様化する生徒。(学力不足、特別な支援、コロナなどで対人関係が上手にできない、など。)

・教員

ものづくりの継承 ベテラン教員が退職していく中で若手への技術・技能の伝達をいかにするか
若い先生がクラブで忙しく、ものづくりに携われない。

一方では、働き方改革を考えないといけない。

ICT を活用すればもっといろいろとできるのでは。

・学校

新たな工業教育を考えないといけない。本校の魅力発信が必要。

定員割れが気になる。

地域との連携 産業デザイン科のお身代わり仏像の取組が、総務省ふるさとづくり大賞を受賞。全国で 15 団体が団体表彰を受けた。教育機関としては唯一の選出であった。

(委員からのご意見)

- (委員) 生徒がどのような気持ちで高校に入ってきているか。進学・就職を考えて入ってきているのか。
意識調査を行っていないければ、是非実施してみしてほしい。
クラスの中で学力差がある場合、レベルに応じた授業を行うのは大変だと思う。
拠点校として、田辺工業や紀北工業と何かすべきではないか。
- (委員) 和工を選んだ理由やその学科を選んだ理由のアンケート調査を実施したらどうか。
- (委員) 英語教育を進めるため、留学生を受け入れたらどうか。
学校の先生も技能検定に取り組みませんか？ 機械検査などは取りやすい。
技術の習得を通して、問題解決能力をつけてほしい。
工業高校の良さを伸ばしてほしい。
同窓会をうまく使ってフォローアップできないか。
やらない子をどうするか。やってみたいと思うような工夫が必要。信頼できる人も必要。
- (委員) 授業力の向上のため、同じ教科の中で教材の共有をしたりしてはどうか。
授業研究や教科会の充実をしてはどうか。他科から学ぶこともあり、子供達にも良い影響がでる。
- (委員) 先生のものづくりの技術力向上はどうなっているか。
→ 工業校長会の研修があり、今年度も2名が受講した。
- (委員) 和工HPでもっとアピールをしてほしい。
- (委員) 定員割れ、電気科のイメージをよくするようにしてほしい。

(3) その他

各委員より1年間の感想

【5】閉会